小学校外国語 5年｜NEW HORIZON Elementary 5 Unit 8 対応

パフォーマンステスト「マイヒーロー紹介」（第8時）

測る力	話すこと［発表］＋［やり取り］：あこがれの人を2～3文で紹介し、先生の質問に応じられるか（知識・技能／思考・判断・表現）
形式・時間	先生と1対1で約1分×全員。教室前方のテスト席で（待機イス1つ）。30秒の紹介＋先生からの質問1～2つ。マイヒーロー・カードを持って来てよい。
ことばの条件	黒板の「3文の型」（My hero is .... / He[She] is good at .... / He[She] is ....）は掲示したままでよい。カードを見ながらでもよい（見ないで言えたかは評価しない）。

35人を回す　テスト中、ほかの子は何をしているか（これが崩壊しない鍵）

グループ	やること	用意する物
A（テスト中の班）	順に呼ばれてテスト席へ。呼ばれる前と終わったあとは、席でBと同じことをする	マイヒーロー・カード
B	Who am I? なりきりクイズ・班戦（出題は子ども・うごき中心なので静か）	絵カード（班用）・活動シート1
C	マイヒーロー・カードで伝え合い・延長戦（小声で・相手を替えて2人。聞く人は Why? を1回きく）	活動シート2（マイヒーロー・カード）
D	振り返りカードの「1年間のまとめ」を書く（書けたら席でBと同じことをする）	振り返りカード（学校のもの）

1班終わるごと（9～10分）に役割がA→B→C→D→Aと1つずれる（テストを終えた班がBへ、Dの班が次のテスト班へ）。1班8～9人・約1分×35人で35～40分。呼ぶ順は名簿順でなく班ごと（待機イスに座るのは呼ばれる直前の1人だけ）。終わった子は、聞かれたことを話さない——後の子が思い出しテストになる。話し出せない子には、先生が先に自分のヒーローを1文紹介してから始める。〈ヒントで先生に当てさせる形〉にするなら、最後に My hero is .... と明かすまでやる——省くと測るはずの1文が出ない。

英語教材ラボ 小学校版　https://eigo-kyozai-lab.com
学校・授業での利用は自由です（再配布・販売はご遠慮ください）

先生用
教材ページ

先生の質問カードと、評価しないこと

先生の質問カード　**この順に聞く（子どもによって2〜3問でよい）**

1. **Hello! How are you?**
（あいさつ・緊張ほぐし。ここは評価しない）

2. **Who is your hero?**
（My hero is .... が出るか。カードを見せながらでOK）

3. **Nice! What is he [she] good at?**
（得意なことを引き出す。答えにくければ Is he[she] good at sports? と2択に落とす）

4. **Is he [she] kind? — Why?**
（人がらへ。Yes＋1語でも十分。Why? には人がらの文をもう一度言えば◎＝because はまだ使わない）

5. **Great! Thank you. See you!**
（お別れまでがテスト）

評価しないこと　He / She の言いまちがいは減点しない（言い直せたら むしろ◎）。だれをヒーローに選んだか（家族か有名人か）は評価と無関係。発音の正確さ・声の大きさは評価しない。見るのは「伝えようとする工夫」（カードを見せる・ジェスチャー・言い直す）を上に見る。

学校・授業での利用は自由です（再配布・販売はご遠慮ください）

ルーブリック（3観点）と記録シート

観点	a（十分満足）	b（おおむね満足）	c（支援が必要）→その場でする支援
知識・技能	My hero is .... に He[She] is good at .... と人がらの1文を重ね、なぜその人なのかが伝わる文まで自分で加えて紹介できる	支えの質問を受けながら、紹介の文を1〜2文言える	カードを指しながら単語（mother! / cooking!）で伝えられる→型の掲示を一緒に指さして1文だけ再挑戦させる
思考・判断・表現	その人のよさが伝わるように語句を選び、What is he[she] good at? などの質問に内容の合う答えを返し、Why? には得意なことや人がらの文をもう一度あげて、やり取りを落とさずに続けられる	紹介したい内容に合う語句・表現を選んで伝えられる	質問と答えがずれる→質問をゆっくりくり返し、ことばバンクを見せて選ばせる
主体的に学習に取り組む態度（単元全体で）	カードづくりや紹介大会で、相手に伝わる言い方を自分で選び直し、Why? に自分のことばで答えたり、聞き手のときも質問を自分から返したりしようとしていた	活動に参加し、振り返りに手ごたえが書かれている	→振り返りの視点を一緒に選ぶ（「だれの紹介がいちばん心にのこった？」から）

迷ったらb。cは「できない子」ではなく「次の一手がわかる子」として記録する。

記録シート　名簿順に○を1つ（テスト中はこれ以上書かない）

番号	名前	知技	思判表	メモ（1語だけ）
1		a b c	a b c	
2		a b c	a b c	
3		a b c	a b c	
4		a b c	a b c	
5		a b c	a b c	
6		a b c	a b c	
7		a b c	a b c	
8		a b c	a b c	
9		a b c	a b c	
10		a b c	a b c	
11		a b c	a b c	
12		a b c	a b c	

この用紙は12行。名簿の人数ぶん印刷して使う（3枚で36人）。態度（主体性）はテスト当日でなく、単元全体の振り返りカードと帯の様子で見る。

学校・授業での利用は自由です（再配布・販売はご遠慮ください）

この単元の所見文例（通知表・指導要録に）

テストと振り返りカードの記録から、そのまま使える形で。名前・活動名を入れ替えて使ってください。

〔知技・a〕あこがれの人について、My hero is .... のあとに He [She] is good at .... と人がらの1文を重ねて紹介できました。「Who is your hero?」の3文の型を、自分のことばとして使いこなしています。

〔知技・b〕ことばバンクから得意なことと人がらを1つずつ選び、He と She を言い分けて文をつくることができます。Who am I? なりきりクイズで何度も耳にした is good at .... の形が、自分の紹介の中でも使えるようになりました。

〔思判表・a〕聞き手にその人のよさが伝わるように、話す順番とカードの見せ方を自分で選びました。紹介大会では「Why?」の問い返しにも、得意なことをもう一度あげて自分のことばで答えています。

〔思判表・b〕見た目や持ち物ではなく、得意なことと人がらを選んで紹介しました。おたがいのあこがれの人を知り合う場で、その人のよさが伝わる語を選べたことが、Why? への答えにもつながっています。

〔態度〕Who am I? なりきりクイズでは、当てた仕事を He [She] is good at .... の文に言いかえてくり返すなど、新しい職業のことばを進んで自分のものにしようとする姿が見られました。

〔態度〕紹介大会では相手を替えるたびに言い方を工夫し、友だちの紹介にも「Why?」とたずねるなど、最後まで意欲的に伝え合おうとしました。

〔はげまし型〕あこがれの人のよさをどう伝えるか、マイヒーロー・カードづくりでじっくり考えました。相手にカードを見せながらであれば、He [She] is good at .... を伝えることができます。人がらの1文もあと一歩です。

〔接続型〕He・She を主語にして「得意なこと」や「人がら」を伝える経験を重ねました。5年間で学んだ表現を使って自分の思いを伝えられるようになっており、6年生の学習に確かにつながっています。

〔発展・★3〕マイヒーロー・カードでは、He is good at .... の説明のあとに、あこがれるわけが伝わる He is kind. を自分で足して、4文をひと続きにして話し切りました。

書き方の型　①活動名（具体）②できるようになったこと（評価規準のことば）③子どもの姿（1つだけ）の3点で書く。順番は入れ替えてよい――②や③から書き出すと、同じ子に同じ文型が続かない。だれをヒーローに選んだかは所見に書かない（家庭の状況に触れることになるため）。書くのは「伝え方」の成長だけ。★3は「教科書を超えて届いた子」の記録。この★は成績そのものではありません（評価は先生の観点に沿って行います）。

学校・授業での利用は自由です（再配布・販売はご遠慮ください）